

レジオネラ属菌について

レジオネラ属菌は好気性グラム陰性の桿菌で、土壌や河川、湖沼など自然環境に広く生息する菌です。しかし循環式浴槽(24時間風呂)、空調用冷却塔など身近な人工的水環境に高頻度で生息していることがわかってきました。代表菌種はLegionella pneumophilaで、現在48菌種が同定されています。約20~45℃で増殖可能で、自然界ではアメーバ内、ヒトではマクロファージ(食細胞内)で増殖します。ヒトへの感染はレジオネラ属菌で汚染されたエアロゾルを吸引することによって起こるといわれています。

現在まで埼玉県内ではレジオネラ症集団感染事例の報告はありませんが、散発患者発生が増加し既に3名がレジオネラ肺炎によって死亡しています。昨年7月には宮崎県で、8月には鹿児島県で循環式入浴施設の浴槽水が原因で起こった集団感染事例が相次いで報告されました。埼玉県衛生研究所で行った環境水からのレジオネラ属菌の検出状況を表1に示しました。

表1 レジオネラ属菌検査状況

埼玉県衛生研究所(1999年 2002年)

検査年	浴槽水	冷却塔水	給湯水	プール水等	水景施設水	総計
1999	6(6)	54(11)	4(0)			64(17)
2000	142(54)	64(29)	2(1)			208(84)
2001	36(18)	56(18)	2(0)			94(36)
2002	69(35)	58(26)	3(1)	35(13)	11(4)	176(79)
総計	253(113)	232(84)	11(2)	35(13)	11(4)	542(216)

()内はレジオネラ属菌検出数

埼玉県では「レジオネラ症防止対策推進事業」によるレジオネラ症防止対策講習会を昨年実施し、公衆浴場、旅館、福祉施設、病院等の循環式入浴施設管理者等に対し、施設の衛生管理の徹底及びレジオネラ症の発生防止に係る知識の普及啓発を行い、レジオネラ症防止対策を推進しています。